

まず、できることから始めてみるICTの活用 ～子供たちの学びを止めないために～



- ①公益財団法人 全国学校栄養士協議会 都道府県代表者研修会 Zoomによる開催 当日事務所の様子 ②都道府県代表者研修会 参加の先生方
③公益財団法人 全国学校栄養士協議会 会長・公益財団法人 学校給食研究改善協会 理事 長島美保子先生
④千葉県学校栄養士会理事 船橋市立坪井中学校 岩島由美子先生

はじめに

新年を迎えて新型コロナウイルスの新規感染者数は過去最多記録の更新が続き、1月7・13日には11都府県を対象に2回目の緊急事態宣言が出されました。しかしその後も感染拡大の収束は一向にみえない状況が続いており、その中で学校の一斉臨時休業について、萩生田文部科学大臣(5日)と菅総理大臣(7日)からは国として「子供の健やかな学びや心身への影響の観点から、これを避けることが適切」との明確な発言がありました。一方で、コロナ禍の「子供の健やかな学びの保障」を守るために、国を挙げて教育へのICT活用が推進されている中、現時点の学校現場における導入率はまだ、約30%*という現状です。

そこで、本号ではこのような状況を踏まえ、「子供たちの学びを止めないためにまず、始めてみる」きっかけとなるように、ICTを活用した身近で手軽な「食に関する指導」の事例を心がけて分かりやすく、紹介しております。また、その他さまざまな活用事例も併せて掲載し、いずれも抵抗なく導入できる参考事例として、「子供たちのためのICT活用の開始」につながれば幸いです。

*文部科学省「GIGAスクール構想の実現に向けた調達等に関する状況」(8月末時点)について(確定値)
スライド2「端末の調達に関する状況について」参照
2020年12月までに端末の納品が完了予定と回答した自治体は、27.0%



目次 まず、できることから始めてみる ICT の活用～子供たちの学びを止めないために～

1. 文部科学省 オンラインによる全国各種研修会等の開催と指導実施について……………	3
●文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 学校給食調査官 齊藤 るみ	
2. コロナ禍における ICT 活用のさまざまな事例……………	4
(1) 初めて学校現場において ICT を活用して取り組んだ「学校における食育」の身近な事例 ……	4
A 北海道札幌市立信濃小学校 「YouTube で動画配信」 ……	4
B 茨城県水戸市立吉沢小学校 「担任・教員・栄養教諭の連携による HP 画像作成・アップロード」 ……	5
C 千葉県東金市立東金中学校 「学校再開に向けて、児童全員が指導内容をよく理解できるように動画を作成」……	7
D 埼玉県草加市立西町小学校 「学校の HP から家庭へスピード配信」 ……	8
E 熊本県八代市立郡築小学校 「スマホで撮影、パワポで編集した動画を HP にアップ」 ……	10
(2) コロナ禍の ICT を活用した「エビデンスに基づく食育」の事例 ……	11
F 「第 3 回食育シンポジウム」における発表から抜粋……………	11
富山県 高岡市立野村小学校 栄養教諭 亀ヶ谷 昭子 栄養教諭食育研究会会員	
(3) コロナ禍以前から継続して取組まれている ICT 活用の先進的・高度な取組の事例 ……	13
●自治体が一体となって取り組む「子供の学びを止めない」ための充実したオンライン授業	
熊本市：市長部局・教育委員会	
●その他の先進的・高度な事例一覧……………	当協会ホームページ 【ICT を活用した先進的・高度な事例】に掲載
(4) オンラインによる全国研修会 ……	13
●全国都道府県代表者研修会を初めてオンラインにより開催	
公益社団法人全国学校栄養士協議会主催	
(5) オンラインによるシンポジウム開催 ……	14
●シンポジスト 11 名、100 名以上の一般視聴者がオンラインによるウェビナー「第 3 回食育シンポジウム」に参加	
認定 NPO 法人 21 世紀構想研究会・全国学校給食甲子園事務局主催	
(6) 学校給食センター調理管理システムにおける ICT の活用事例 ……	14
●「食育」の観点と ICT を駆使した調理管理システム 学校給食衛生管理基準の徹底とおいしい給食へのこだわり	
静岡県 袋井市立中部学校給食センター	
3. 提言 「コロナ禍を超える ICT を活用した『健康で健全な食生活の実践』に向けて」……………	15
●「子供たちの健やかな成長」を支える ICT 活用の到達点をめざして	
佐賀県 基山町立基山小学校 校長 江口 陽子 前学校給食調査官・当協会理事	
4. 編集を終えて……………	16



表紙：2020 年 12 月 10 日、
47 都道府県代表者研修会を
Zoom にて初めて開催
公益社団法人
全国学校栄養士協議会

事前確認、交信テストを実施
当日、手元の出席者名簿と
Zoom 画面を照合し、確認
同協議会事務局

1. 文部科学省 オンラインによる全国各種研修会等の開催と指導実施について

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

学校給食調査官 齊藤 るみ



オンライン研修会等の実施
初めてのオンラインによる全国各種研修会等における指導・講義を実施

今年度、8月まで講義を依頼されていた研修会等は、ほぼ中止となったが、その後、オンラインによる研修会を開催するところが増えてきた。

具体的な事例としては、10月に開催された島根県教育委員会主催の研修会において、テレビ電話会議システム（Zoom）による研修会が実施された。その際、参加者は5ヶ所の会場に分かれて集まり、私はこの5ヶ所の会場に対して、文部科学省（以下 文科省）から遠隔講義を行った。

受講者はマスクを着用しているため表情が読みにくいということはあったが、講義資料をパソコン画面に映すことで会場と講義資料を共有でき、集合して直接講義することが困難な状況となっても、オンラインにより講義を行えることは、方法の1つと考える。

現在、文科省では、Cisco Webex Meetings、Zoomを使用しオンライン会議等を行っている。今年度、当課が開催した会議の多くは、オンライン、または、対面とオンライン併用の形式で実施している。

一方、学校給食調理場の衛生管理に関する指導等については、調理場を実際に見ながら指導することも必要である。これをオンラインで実施する場合、調理場の様子を映像等で映す方法も考えられるが、給食調理場の全体像が見えないので、事前に図面等資料を送って頂くなどの対策を検討する必要がある。

オンライン開催のメリット

オンライン開催のメリットとしては、遠方まで移動する必要がなく、研修前後の移動時間を有効に活用することができる。また、Zoom等を使用すれば、オンラインの参加者の中でグループを組むこともでき、オンライン上でのグループ協議も可能となる。

オンラインの経験がなかった方も、使用することで慣れてきていると感じている。

学校現場・給食調理場におけるICTを活用した事例について

「食に関する指導」・「個別指導」など

文科省では、令和2年5月13日に「臨時休業等に伴い学校に登校できない児童生徒の食に関する指導等について」の事務連絡を発出した。栄養教諭を核とした「食に関する指導」について、適宜ICTを活用することにつ

いても記載している。取組事例としては、学校ホームページ（以下HP）で栄養教諭によるおすすめ昼食レシピの提供などを紹介しているが、その他、子供が作れる料理を動画で紹介したり、インターネットのサイトを利用し、自宅で簡単に作れるようアレンジした学校給食の献立を紹介したりしている事例なども伺っている。

さらに、個別的な相談指導が必要な児童生徒に対しても、健康状態の確認や家庭の食事に関する助言などの必要な指導が継続されるよう、ICTを活用した取組も求められる。



画1 オンライン研修会の様子

学校給食センターにおける調理システムのデジタル化

学校給食センターでは調理場内温湿度表示および調理機器内の温度測定など、デジタル化も進んでいる。

たとえば調理中の中心温度測定値がパソコンに届くシステムの構築により、数値を記録するためペンを持つことによる汚染なども含めた衛生管理上の問題も、このような機器の導入により解決されている。

まとめ

今後のICT活用について、栄養教諭の方々に対しては「コロナ禍であるからやる」ということではなく、「日常的にICTを活用することによって効率の良い取組や充実した指導につなげて頂きたい」と思っている。オンラインなどのICT活用は今後、栄養教諭等にとっても必要不可欠な取組のツールとなり、それは「給食の運営」においても同じである。ICTの活用により、栄養教諭だからこそできる「食に関する指導」に取り組み、活躍されることを期待している。

2020年12月3日 オンライン面談により取材

2. コロナ禍における ICT 活用のさまざまな事例

(1) 初めて学校現場において ICT を活用して取り組んだ「学校における食育」の身近な事例 「子供たちの学びを止めないために」、学校内で工夫して取り組まれた手近で効果のある実践

以下 A～E オンラインによる面談取材

A YouTube で動画配信

北海道：札幌市立信濃小学校 栄養教諭 林原 久美



一斉休業後、ICT 活用の取組開始となったきっかけ・状況

1. 休業中の動画配信開始へのきっかけと経緯

- 突然一斉長期休業となった2月末に、栄養教諭として「何かできないか？」と考えると、まず、「給食通信いただきます」を新規に作成し、HPにアップすることから始めた。
- 再度一斉休業となり、教職員が子どもたちの生活リズムや学習の進行を心配する中、市教委から YouTube の利用が許可され、校長先生から「便利だけではなく、動画配信を始めよう」と提案があった。

画2 4月14日(火)～5月31日(日)札幌市一斉の臨時休業期間<給食通信>いただきます<第1号>から<第18号>をHPで発信



札幌市立信濃小学校HP 給食だより&給食通信より

画3 <給食通信>いただきます資料を通して「子どもクッキングレシピ」を紹介



2020.5.7(木)札幌市立信濃小学校<給食通信>いただきます<第12号>

2020.5.11(月)札幌市立信濃小学校<給食通信>いただきます<第13号>

札幌市立信濃小学校HP 給食だより&給食通信より

画4 <給食通信>いただきます資料を通してしのの牛乳チャレンジ! 家族みんなで、「毎日コップ1杯の牛乳」を! 啓発運動を実施



札幌市立信濃小学校HP 給食だより&給食通信より



- 動画の題材として先生方からは勉強や運動が挙げられたので、栄養教諭としては「食生活に関することを配信したい」と考えた。
- ①学校給食停止で牛乳が余り、農林水産省で牛乳の消費拡大を呼びかけていることも話題となっていたので、牛乳を題材にした動画がよいのではと考えた。

資1 札幌市立信濃小学校 限定配信のYouTubeで、牛乳の飲用を呼びかける動画を作成、配信



栄養教諭の挨拶が始まり...

BGMの「枝歌」に合わせて、コップ1杯の牛乳を飲みました。(密を防ぐため、お互いの間隔を十分とっています。)



*動画には、テロップでちゃんと留意事項も載せました。

札幌市立信濃小学校 栄養教諭 林原久美先生「臨時休業、給食停止における取組について～給食通信と動画配信(学校限定YouTube)～」資料より抜粋

- ②先生方と相談し、「子どもたちに休み中も毎日牛乳を飲もう」といった牛乳の飲用を呼びかける動画「牛乳チャレンジ」でいこうということになり、早速動画作成が始まった。

③まず、栄養教諭である私が、シナリオとテロップと配役を決め、牛乳とマイコップなど必要なものを準備して、校長先生をはじめ、10名の先生の協力を得て撮影を行った。

2. 動画作成の具体的な進め方

- 普通のビデオカメラ(ハンディタイプ)を三脚に立てて、密を防ぐために、体育館で2mの間隔をとり、牛乳を飲む瞬間以外はマスクをつけたままで撮影した。
- 校長先生を中央に、10人の先生が間隔をあけて立ち、栄養教諭が「皆さんこんにちは！毎日、牛乳を飲んでいますか？」と呼びかけてスタート。続いて2人の先生が「いつも毎日学校の牛乳を届けてくれるすべての人に感謝して」、「自分の健康のために牛乳を飲みましょう！」とテロップを持って呼びかけた後、校長先生の掲げるテロップ「しなのぎゅうにゅうチャレンジ！」と全員で呼びかけ、BGMの「校歌」に合わせてコップ1杯の牛乳を飲んだ。
- 牛乳アレルギーの児童に配慮して、「豆乳でもいいよ」と呼びかける場面を最後に入れた。
- テロップは、画用紙にパソコンでプリントアウトしたものを貼り、手に持って撮影し、パソコン機器に詳しい先生が動画編集の際にさらに画面に文字を加えた。
- 動画編集は、パソコンについている簡単なソフトを活用した。
- 動画をYouTubeにあげるのは教頭先生が行った。

実施後の児童・保護者・校内からの反応、フィードバックや効果など

1. 児童・保護者からの反応・効果
 - 「HPの給食レシピを見て家でも作っています。」「もっといろいろ知りたいので教えてください。」「子どもが“しなのぎゅうにゅうチャレンジ”の動画を見て、すぐに牛乳を飲みました。」

課題や今後につながる感想・体験など

1. 一斉休業を経て、学校HPは、保護者や児童が学校側からの発信をいち早く確実にキャッチでき、その役割がとても大きいことを実感した。
2. 子どものことを一番よく知っている先生が、自校の子どもたちの実態や状況に合わせて、学習内容の資料を提供することがたいへん重要で効果があることも実感できた。
3. 文科省や札幌市教委が一律に出す資料では、各学校の異なる進捗状況に合わせた細かい対応は難しい。学校がYouTubeで動画配信を行うことで、子どもたちは顔見知りの先生が動画内に出てくるので興味を持って見ることができていたようだ。また、何回も繰り返して動画再生することができることなど、多くの利点があると感じた。

4. 札幌市では年度内に、1人1台タブレットが整備されるので、ICTの情報発信が簡単にでき、コロナ禍で在宅の子どもにも勉強の機会を与えることができるようになり、給食が中止になった場合も、食育に関する情報の発信が可能になる。

5. 校長先生が「撮影したらアップするよ！」と声をかけ、自ら主導して「お話」や「朝の会」等を次々配信されていったので、「まずはやってみよう」と周囲の先生方が、学年ごとにいろいろな取組を始めるきっかけにつながった。

6. LINEを利用して、作成した動画を共有することで、アイデアが広がり、調理実習・縄跳びや体操・国旗当てクイズ・算数や歴史の学習など、70本近いたくさんの動画を配信することにつながった。

B 担任・教員・栄養教諭の連携によるHP画像作成・アップロード

茨城県：水戸市立吉沢小学校 栄養教諭 山本 智香



一斉休業後、ICT活用の取組を開始した時の状況

1. 休業中のデジタル発信開始へのきっかけと経緯
 - (公社)全国学校栄養士協議会から出された全国通知^{*1}をみて、まず、栄養教諭としてどのように取り組むべきかを考えた。
 - 一斉臨時休業となり、校長先生から「臨時休業中の児童に学校の状況を発信しよう」、「各学年で1つ情報を発信しよう」との提案があった。
 - 周囲の先生方からも各学年でどのような発信をするかなど、検討・相談の声が上がってきた。



画5 卒業式の前日(令和2年3月17日)に提供される予定だった給食委員会企画「ドリームランチ」^{*2}

- 3月に予定していた給食委員会(児童6名)企画献立(ドリームランチ)の提供ができなくなったことがきっかけで、今もっとも手軽にできる発信はHPであると考え、取組を開始した。

※1 すこやか情報便第24号P4参照



※2 水戸市立吉沢小学校HP
令和2年3月12日ブログ「ドリームランチ」より



2. 取組開始の経緯と内容

- 児童が家にいる時間が増え、「給食メニューでおやつに使えるレシピ掲載」を考えていた時、4年生の先生から、「おやつだったら、一緒に作りましょう」と声が掛かり、調理実習・文書作成・写真撮影などを一緒に行き、HPにアップロード（以下アップ）した。その後も毎月シリーズ化して、取組を継続した。

資2 お家で簡単クッキング(4年生から家庭でできる)

○簡単豆乳蒸しパン

<材料(給食の4人分)>

- ・蒸しパンミックス 100g ※ジャムの代わりにレーズンやチョコレートを加えてもおいしいです。
- ・苺ジャム 20g ※豆乳の代わりに牛乳でもできます。
- ・豆乳 80g
- ・お弁当用のカップ 8コ



豆乳を使うことで、不足しがちなたんぱく質、鉄、カルシウムがとれます。給食室 山本先生より

○試食感想～4年生の担任より～

- ・安孫子先生 「みんなも栄養バランスのとれた食生活を心がけましょう！」
- ・浅見先生 「とってももちもちしていておやつに最適です！」
- ・阿部先生 「簡単なので4年生でも取り組めそうですね！」



<作り方>

- 1 豆乳と苺ジャムを混ぜる。
- 2 ケーキミックスと1の材料を混ぜる。
- 3 お弁当用のカップにとりわける。
- 4 蒸気が上がったなら、3をお皿に並べる。
- 5 5～7分蒸す。
- 6 竹串で火が通ったのを確認できたらできあがり！



水戸市立吉沢小学校HP 令和2年4月15日ブログより

- 次に高学年の先生から「今、児童は昼食に何を食べているのか、昼食を作るのは大変だろうから、調理してみよう」と声があがり、私に、「家庭科室で講師をして下さい。」と依頼があった。献立は家庭科の調理実習の中で、「炒める料理」に「卵を使った料理をしよう」という単元があったことから、「オムライスを極めよう」というテーマに決定。これを受けて、オムライス作りをHP上に発信すれば、児童も家庭科の勉強の糸口を見つかることができ、先生が頑張っている姿を見て、自分も作ってみようと思えるのではないかと考えた。

資3 お家でできる調理実習【オムライスの作り方】

・オムライス

1. 卵の卵黄を3個をよく混ぜる。(卵白を加えて混ぜる。
(生クリームやアーモンドミルクを加えると粉がふわふわ仕上がる。))
2. 油をよくなじませたフライパンにバターを大さじ1量かし、卵液を入れる。焦げで真ん中によせるようにして、焦げがよいに焼ができたから離して手前1/4～1/2の所で、次に焼がけてフライパンの縁の部分をトントンとたたいて卵の裏側を手前に戻してとめる。(裏はよいからフライ返しを使う。) 手早く上下を返し、とり目を上げする。
3. ナムライスの上は、オムレツを返すようにして、肉をオムレツの真ん中をナイフで縦に切り目を入れ、ナムライスをもぎつのように左右に広げる。



水戸市立吉沢小学校HP 令和2年5月13日ブログより



3. 初めての取組の準備と進めた経緯

- 調理実習は、先生方からの呼びかけで若い先生も多く参加され、カメラを持参、この角度がおいしそうに見える、この撮り方が良い等、まるで私が撮影方法を受講している気になるくらい、熱心に取り組まれていた。
- 写真は皆で撮り合い、自分の気に入ったものをアップするという形式。写真の撮り方は栄養教諭自身もたいへん勉強になり、普通のカメラでもおいしく見える撮り方など勉強も兼ねて、楽しく進めることができました。
- 情報主任の先生に文書と写真を渡せばHPにアップして頂けるといって恵まれた環境もあって、すぐスタートすることができた。

実施後の児童・保護者・校内からの反応・効果など

1. 校内教職員の意識改革

- オムライスプレゼンの翌日に、低学年の先生から、「昨日オムライス作りを見て、私も作ってみたいくなってトライしましたが、どうですか？」と、手作り弁当のオムライスを披露された。
- 低学年に家庭科はないが、食育の発信について先生方からの協力はたいへん有難く、先生方の食育に対する意識啓発に情報配信がタイミングよく、いい効果につながったことを実感した。
- 分散登校時に、HP発信を見た児童が実際に家で調理をしてみたこと、担任から報告があった。
- 学校再開後、「自分たちで考えた献立を皆に食べてもらいたい！」と新しく給食委員会に入ってくれた児童が多くいた。「ドリームランチ」の取組は再度実施しようと考えている。

コロナ禍の課題を、今後につながるように工夫することで解決し進めることができることを体験

1. ICT設備環境・校内職員の研修など

- タブレットを使った授業展開（現在1学級分の台数

を確保)について、以前から教諭向けの研修を実施中。

- HP 上で写真と文書によるレシピ発信を行いながら、今後は動画配信にもつなげていきたい。
- 取組内容のレベルアップに向けて、環境設定についての研修や、最新情報収集も心がけている。

2. 学校内の環境

- 学校内で質問・相談など気軽にできる環境の下、先生方と常に話し合い、協力しながら取り組んでいる。
- 日頃から、様々な分野・世代・教科を超えた先生方と互に関わって、共に思いを共有しやすい環境があったので、取組は抵抗なく自然に流れるように進んでいった。
- 困難なことも共に協力すると、スムーズに進んでいくと常に感じていたが、コロナ禍を機に改めてまず、身近な先生に投げかけ・訊いてみることから始めるのがたいへん重要だと実感している。

3. 新しい生活様式の良かったこと

- 新しい生活様式の「前向き給食」は、喫食時に全員が同じ方向を向いているので、集中して指導することができ、映像で伝えることで効果的かつ容易にできるようになった。
- 家庭科の調理実習デモでは、調理台を囲めないで、手元をタブレット等で映し、後部座席の児童までテレビ画面等につないでよく見えるようにする工夫など、以前とは異なった、新しい角度・視点による指導方法をさらに実践している。

C 学校再開に向けて、児童全員が指導内容をよく理解できるように動画を作成

千葉県：東金市立東金中学校 栄養教諭 白鳥 友美子



取組開始の校内状況・きっかけ・開始方法など

1. 一斉休業中、東金市教育委員会による給食再開に向けての指導があり、これを基に行動
 - 教育委員会の指導を全教職員で共通理解するために紙面資料を

作成し、これを基に子供や先生の動きを絞り込んでいく作業の途中から、紙ベースでは理解し難いと感じるようになった。

2. 校長先生の呼びかけで、全員がよく理解できるように、動画を丁寧に作成

- そこで5月後半に先生方が生徒・先生役になって模擬体験の形で新しい給食配膳方法を実践したが、保健や生徒指導などの問題が出てきたために、全員が共通理解できる方法を考えた結果、ビデオ撮影を行うことになった。
- 管理職の先生から皆がよく理解できるように、詳細・

丁寧な内容にするように、との指示があり、全員で確認しながら、出てきた改善点を見直し、また撮影し直すという作業を何十回もくり返して15～20分の長さの動画を作成した。

- 学校再開から給食開始までの1週間の間に、作成した動画を子供たちに教室で見せることができた。

資4 東金市立東金中学校の取組

● 検討・研修 (校内研修や校外研修で研修を行った)

- ・ コロナウイルス感染予防対策給食提供マニュアルの作成
- ・ 配膳に配慮した献立の検討
- ・ 3密にならないよう、配膳場所や配膳方法の検討
- ・ 調理員への衛生研修

● 学校のHPから家庭に配信

- ・ 新型コロナウイルスに負けない栄養素と食べ物
- ・ 手洗い動画やポスター

● 動画配信

- ・ 新しい給食配膳方法



公益社団法人全国学校栄養士協議会会報
令和2年8月 第76号発行より引用

3. 動画の内容 (テーマ・長さ・場面など)

- 養護教諭・生徒指導の先生と相談して、テーマは「給食の前後の過ごし方」で、長さ約15～20分となった。
- 中学校は教科担任制なので、4時間目終了時に教室に「担任が居た場合」、「教科担任が居た場合」の先生と子供たちの動く様子や、「生徒が体育から戻ってきた場合」の様子などいくつかのパターンを作成した。

4. 動画作成委員会を立ち上げて作成、その道具・備品など

- パソコンやカメラの技術に詳しい視聴覚の先生が中心になって作成して頂き、養護教諭と栄養教諭が具体的な指示をさせて頂いた。
- カメラは、デジカメの動画機能で撮影し、教えてもらいながら、編集作業、テロップ作成も一緒に行った。何回も撮り直して、編集に長時間かかった。

児童・保護者・教員の反応、効果やフィードバック自身の想いなど

1. 紙面文字の資料と動画の違い

- 文字だけの紙面情報と違って教員の作成した動画は、とても分かりやすく、インパクトが大きく異なるということがわかった。
- 動画を見て、生徒たちは感じることや注目するポイントが異なり、「ここはどうしたら良いのですか」、といった質問が多く出て、紙面に比べて生徒が深く理解してくれていることを実感した。
- 今回動画作成に携わったことで、自身の勉強となり、こんなことができるという発見があった。

2. 先生方・子供たちが色々な形で画面に登場・参加することの効果

- 今回全員が身支度（エプロン・三角巾・マスク）を徹底することになって、先生が三角巾をしていることなどに驚いて、子供たちが動画に関心を持って見ていたことが伝わってきた。
- 張り切ってコック帽をかぶって参加された先生の様子などを見て、学校全体が盛り上がり理解を深め、一体となって取り組むことができたことを実感した。
- 子供たちも授業で作ったエプロンを用意して見せにきてくれたり、関心を持って身支度について考える機会となっているようで、動画を作成して良かったと改めて思った。

3. 保護者からの反応

- 保護者の方からは、例年の保護者向け給食試食会が中止となり、「給食のレシピを教えてほしい」という要望があり、お渡ししたところ、「家で作ってみました。」とさっそく報告があった。

課題や今後につながることなど

1. ICT・デジタルに対する考え方

- 動画作成・パソコンについて学習したことで、多くのことができることが分かったので、この経験を基に、再度長期休業となったとしても、様々なことを積極的に発信したいと思っている。
- 調理レシピの配布等、情報提供を行っている中で、今後調理の様子など届けたいが、全校500人全員に向けて確実に情報発信するのは難しい現状があり、このことが今後の課題となっている。

2. 現在のICT環境と連絡方法

- 現在、学校は1学級分台数のタブレットを保持し、教育委員会・市としても積極的に推奨されており、市として台数を増やし、また学校内の整備も始めている。
- 生徒は授業でタブレットを使用し、体育ではタブレットで撮った写真を使ってフォームを確認、同様に理科の観察等も行っている。
- しかし現在、メールによる連絡が取れないご家庭もあり、確実に全員とオンライン連絡のできる状況ではないので、導入をお願いしながら、電話連絡・プリント配布等で対応している。



画6 パソコンに向かって作業

D 学校のHPから家庭へスピード配信

埼玉県：草加市立西町小学校 校長 須賀 達也



栄養教諭 今井 ゆかり

コロナ感染拡大時、ICT活用開始のきっかけ・状況・経緯

【須賀校長】

1. 4月着任後、HPリニューアルのきっかけとなったこと
 - 着任時、緊急事態宣言を受け、一斉休業の延長で3～6月までの長期休業となり、保護者への校長・担任の異動通知や教科書の配付など業務山積で、HP更新どころでない状況があった。
 - 保護者への連絡手段として、文書より映像写真を上手く活用すれば分かりやすく伝えることができるので、ブログの形式でHPの更新を開始した。
2. HPリニューアルの進め方・留意点
 - 市と契約しているシステム会社からソフトを導入し、HPをリニューアルしたが、慣れると想像していたより簡単にできた。
 - 凝りすぎると長続きしないので、HPの「見た目」より情報の「鮮度」を意識し、取り組むことにしている。
 - 「掲載する情報については積極的に収集して、地域住民の知りたい・関心のあることをアップする」などを教職員で共有し、登下校や、近所の見回りの際に子供や地域からも毎日情報を収集して、あげている。
3. HPリニューアル後の更新など、運営について
 - HPは広く社会への発信だが、先生方にはやはり担任するクラスの子供の幸せを第一に考えて発信してほしいと思っている。
 - コロナ対応で先生方は非常に忙しいので、校長がまとめて更新・アップしている。
 - 学年のページに関しては、クラス事情に詳しい先生方の想いが反映されるように、学年の情報教育部に積極的に呼びかけ、アップして頂くようにしている。
 - HPに子供の写真をアップする時は、当人と特定されないかどうかの確認に細心の注意を払い、学年のブログも、校長を素通りして更新されることのないように徹底している。
4. パスワード付きの動画アップについての手順・経緯
 - 草加市教育委員会より第2波に備えて、YouTubeの積極的な活用取組の依頼があった。
 - 動画アップする際は、草加市教育委員会の最終決裁が必要。
 - 「子供たちに動機づけをするための動画作成」に当たって、台本・カメラアングルなどこだわりすぎて、大変な作業となったので、今後はZoomやテレビ電話会議等も上手く活用したいと考えている。
 - 新学期、新担任の顔が分からないという実態があり、

先生の自己紹介メールを毎日アップして、HPへ導き、児童と学校とのつながりが切れないように注意した。^{※3}

- 学校のメールや学校だよりでHPの更新について、休業中にお知らせしたので、反響も大きく、毎日のHP訪問者が増えて、さらに更新意欲への原動力となった。

子供や保護者の反応やフィードバック

1. 子供や保護者からの反応

- 子供たちからは「楽しみにしているよ」と声が掛かるようになり、保護者からは「校長先生が15時過ぎに更新しておられるので、夕飯の時に子供と一緒に見ています。」等の声を頂いている。
- コロナ禍の心配の残る中、慎重に修学旅行を実施し、多くの写真をブログに掲載したことも、保護者の方々の信頼を得る一助になったと思っている。^{※4}

課題や今後につながること

1. 学校評価の中で、「学校から帰って、家庭で学校の話をする」という項目があるが、この数値は総じて低く、HPが家庭内で学校と家庭をつなぐ話題のきっかけとなるように、利用して頂ければ、と期待している。
2. HPのリニューアル・更新は簡単ではなかったが、学校と子供たちや家庭がつながるための重要で効果的

なツールとであることを今回改めて痛感した。今後はできることから進めて、さらに努力して続けていこうと思っている。



取組を開始した時の状況・きっかけ・方法

【今井栄養教諭】

1. 4月に赴任された校長の方針により、積極的に推進
 - HPの更新については、全て校長先生の積極的なリードと実践力のお蔭で開始できたと思っている。
2. 一斉休業となったため、動画を作成
 - 今年は校長のリードの下、HPは頻回に更新されており、運動会も参加家族1名に限定した形で記録会を学年別に行ったが、すぐにアップされたことで、全員が見ることができた。
 - 一斉休業に入ったために、5年生で3月に家庭科の先生とTTで行う予定の実習授業「ご飯を炊く」をパスワード付き限定のYouTubeで動画を作成して、掲載した。

資5 埼玉県草加市立西町小学校 休業中5・6年生家庭科「ご飯の炊き方」動画
埼玉県草加市立西町小学校HPにパスワードを設け、公開



※3 西町小だより令和2年6月1日第3号



※4 西町小ブログより 修学旅行!!大成功!!! (6年生)



児童・保護者・先生方からの反応・効果

1. 教職員からの報告

- 「実際にお家でお米を炊いたよ」と3人の児童が直接話してくれた。
- 家族も外に出ない事が多かったので、一緒に何かやろうと取り組んだ子供たちもあったと聞いている。
- 積極的なHP更新の取組により、学校のWeb環境は格段に変わってきたと実感している。

2. HPリニューアルなどコロナ禍の新しい様式から得られた効果と課題

●調理デモ配信の効果

- ①密を気にすることなく、調理の手元を映し、見せることができる。
- ②火の近くの画像も安全にプレゼンでき、包丁を使う際に包丁の刃が食品に接している面を詳細に見せることもできる。
- ③炒め物の調理画像から、においを感じとり、炒める音も聞こえ、実際に作業している手元をアップで見ることができる。
- ④お米を炊く動画を見ることで、火元を気にしないで安全に、アップ映像を見ることができる、という利点に気が付き、発想の転換につながった。

●コロナ禍の新しい様式から得たこと

- ①画像配信による様々な反応などの効果に改めて気づき、今後の取組内容の発想に活かしたい。
- ②コロナ禍による新しい様式を工夫してみたことから、いつもと違う視点で色々なことを発見し、考えることができるようになった。

E スマホで撮影、パワポで編集した動画をHPにアップ

熊本県：八代市立郡築小学校 栄養教諭 福岡 ちづる



臨時休業後、ICT取組開始のきっかけ・状況

- 緊急事態宣言の中、心配した学校長が車で地域を見回ったところ、外で遊んでいる子供を見かけなかったことから、在宅の子供たちに何か発信しなければなら

ならないとなり、学校全体で取り組むことになった。

- 休業期間が新学期にかかっており、子供、保護者は赴任してきた担任の名前、顔も分からない状況で、発信方法を考えたときに、まだ1人1台の機器や施設設備が整っていない状況であるため、子供たちに情報を発信する手段はプリントの他HPしかなかった。

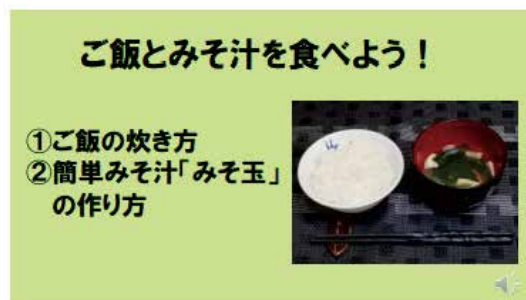
動画の作成の経緯

- 地域の小中学校で連携している保護者や児童生徒を集めて毎年実施している「健康教室」は今年度中止となったが、昨年度からの体調不良で保健室に来る児童は、

主食だけという実態が多いことから、バランスのとれた食事の必要性を周知することを企画していた。

- コロナ禍で、家にいる子供たちがこのような状況だからこそ、バランスのとれた食事の必要性を理解し、主食とせめてもう一品だけでも食べてほしいとの願いから火を使わず保存することもできる「みそ玉作り」をテーマに資料作成をすることになった。
- 紙の資料だけだと読まない子供はるかに多いが、インターネットの動画等は多くの子供が見慣れていることから、動画を中心とした発信となった。

資6 熊本県八代市立郡築小学校
「ご飯とみそ汁を食べよう！」動画



熊本県八代市立郡築小学校HPより



動画作成の具体的な進め方

- 動画作成に当たっては、第七中の栄養教諭と協力し、まず簡単な場面に絵を描きシナリオ作成を進めた。
- 動画は身近なスマホで撮影し、編集は普段から使用しているパワーポイント作成と同じように写真を動画に変えた要領で編集した。
- HPにアップする動画の作成は初めてであったが、これまで使用してきた機器を、普段の仕事と同じような感覚で使用し作成したため、「動画を作らなければ」という気負いもなく仕上げることができた。
- 作成後、校内の3つの部会の1つ「体づくり部」でHPの載せかた、職員への周知後の子供、保護者への周知等を共通理解し実施した。

児童・保護者からの反応・効果

- (知り合い)保護者から早速「見ましたよ」と声をかけて頂いた。
- 子供たちからは直接「作ったよ」という反応がまだないので、今後はフィードバックを含め、こちらからも確認していきたいと思う。

課題や今後につながる感想・体験など

- 休業中、地域を巡回して子供がいない状況を見た学校長から「学校全体で情報発信をしていこう」と声かけを頂いたことがきっかけとなって、多様な取組・情報発信を行うことができた。
- 上記の取組とは別に、2020年6月より「くまもとの魚学校給食提供推進事業」が開始され、西部学校給食センターでは、天草の養殖鯛を提供することとなった。そこで、生産者の方々のお話を聞き、クイズを入れた7分程度の食育動画を作成した。動画は、給食で提供する当日に各学校や幼稚園で放送され、「生きた教材」として子供たちの学びにつながった。
- HP用の動画を作成することは初めてであったが、普段の仕事の延長線上で、使い慣れているものを使用することで、完成させることが出来た。見栄えの良い高度なことにこだわらず、子供が見て理解できることを重視しながら、普段の教材作成の延長線上の工程で作成することができた。
- 作成した動画を、実際、子供たちに見てもらうために本校の教職員が協力し保護者、子供に動画を見るように伝えてくださったことが大きく有難かった。
- 今回、動画作成を行ったことによって、今後どのような状況になっても、子供たちに「給食・食育」についての「学びの時間と場面」を確保するために、ICTを活用する必要性と重要性を実感し、「食に関する指導」を動画等で発信できることを確信した。

(2) コロナ禍のICTを活用した「エビデンスに基づく食育」の事例

F エビデンスに基づく「食に関する指導」を行うことで、内容の主旨をしっかりと伝える効果が得られた

富山県高岡市立野村小学校 栄養教諭 亀ヶ谷 昭子
栄養教諭食育研究会会員



手作りパネルを立てての給食喫食

高岡市では長期休業した後、学校が再開してから10月末まで、コロナ感染防止対応として、給食時手作りの飛沫飛散防止のパネルを机の上に立てて静かに喫食した。

画7 一斉休業明け6月の給食の様子



富山県高岡市立野村小学校

「毎日 しっかり 朝ごはん」運動の継続

富山県では毎年夏休み後の9月に「毎日しっかり朝ごはん」運動を実施している。今年はコロナ禍ということで、3つのことに取り組んだ。まず、絵本を手渡して朝ごはんの大切なことを呼びかけた。

画8 給食委員作成の朝ごはんのビデオを朝の会で視聴



富山県高岡市立野村小学校

次に、クラス訪問の代わりに、給食委員が作成した朝ごはんのビデオを朝の会の時に全校で視聴した。さらに、朝ごはんについての指導内容と資料を担任に渡して、学年の発達段階に応じて指導して頂いた。

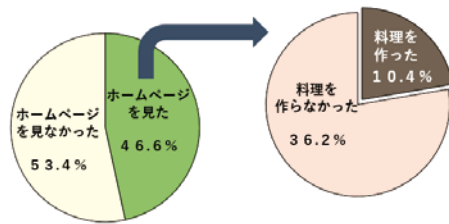


画9 令和2年11月14日 第3回食育シンポジウムZoom画面

休業時における保護者向け簡単レシピの情報提供

HPの活用状況のアンケート調査結果は、HPを見た方が46.6%の半数で、そのうちの1/4の方々が料理を実際に作ったと回答されていた。この結果を基に今後は、保護者に対してさらに効果的に伝える方法を検討・工夫しながら実施していきたい。

図1 一斉休業時の新しい取組～レシピ紹介～
手軽にできるレシピ活用状況



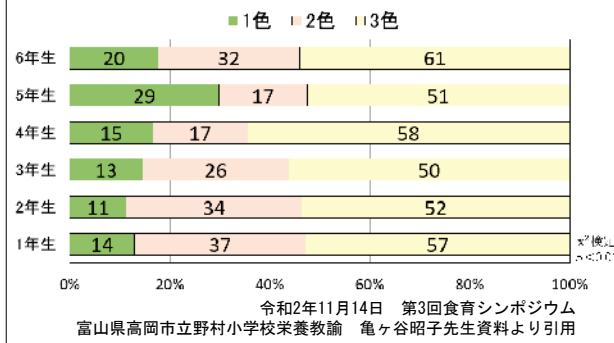
保護者に対し、効果的に伝える方法についてさらなる検討が必要

令和2年11月14日 第3回食育シンポジウム
富山県高岡市立野村小学校栄養教諭 亀ヶ谷昭子先生資料より引用

休業時の「児童の朝ごはんの食事内容」

休業中の朝ごはんの内容について、赤の食品（肉・卵・魚・豆・豆製品）、黄の食品（ご飯・パン・麺）、緑の食品（野菜・果物）の3色に分け、何色の食品を食べていたかをアンケート調査を実施した。

図2 コロナ禍における朝ごはんの食事内容



令和2年11月14日 第3回食育シンポジウム
富山県高岡市立野村小学校栄養教諭 亀ヶ谷昭子先生資料より引用

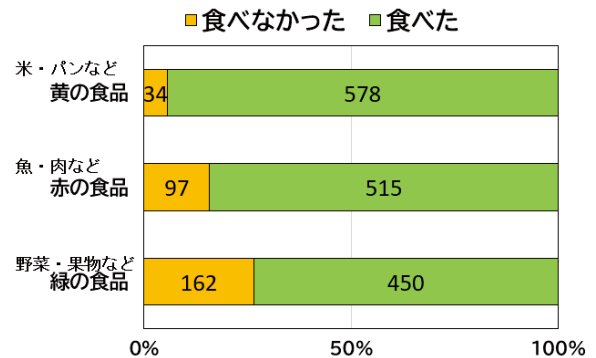
その結果を学年毎にデータで示すことで、担任に朝ごはんの指導の必要性を理解してもらうことができた。

また、学習参観で朝ごはんにおけるおかずの大切さの授業を行ったことで、保護者の方も共に、朝ごはんのあり方について考えて頂く良い機会となった。

休業時における児童の昼食の内容

学校給食があるときは、赤・黄・緑の食品を3色とも全部食べているが、家では黄の食品は6%・赤の食品は16%・緑の食品は26%の児童が食べていなかった。

図3 一斉休業時における児童の昼食の内容
(食事状況アンケートの結果より)



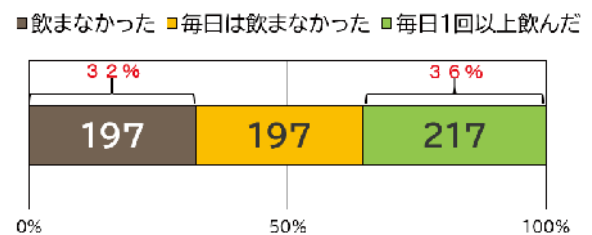
令和2年11月14日 第3回食育シンポジウム
富山県高岡市立野村小学校栄養教諭 亀ヶ谷昭子先生資料より引用

休業時に児童が牛乳を飲んだ頻度について

休業時、1日に1回以上牛乳を飲んだ児童は36%で、飲まなかった児童は、32%であった。

調査の結果から、もっと野菜を食べて牛乳を飲むなど、毎日赤・黄・緑の食品をバランスよく考えて食べることが大切である、と伝えていくことが改めて必要だと実感した。

図4 一斉休業時における児童の牛乳飲用の頻度
(食事状況アンケートの結果より)



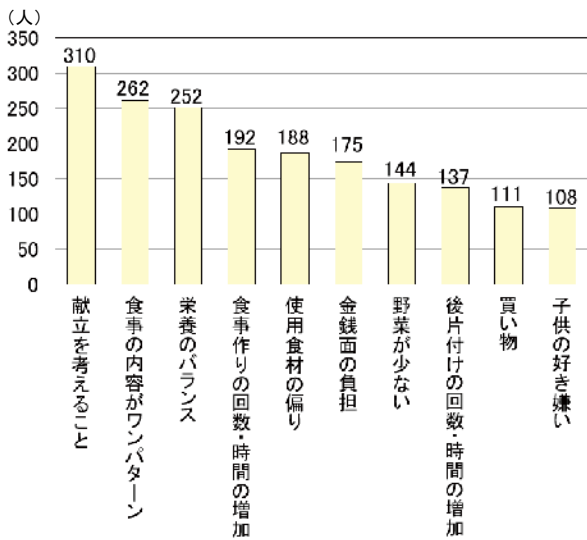
令和2年11月14日 第3回食育シンポジウム
富山県高岡市立野村小学校栄養教諭 亀ヶ谷昭子先生資料より引用

コロナ禍における保護者の食事に関する困りごとについての調査結果

保護者の食事に関する困りごとは、①「献立を考えること」、②「食事の内容がワンパターン」、③「栄養のバランス」というような結果となった。

保護者が実際に困っている具体的な内容を知ること、今後、栄養教諭としてどのような働きかけをすれば良いかが見えてきた。これを基に家庭と連携した取組を進めていこうと考えている。

図5 コロナ禍における保護者の困りごと(食事面)



令和2年11月14日 第3回食育シンポジウム
富山県高岡市立野村小学校栄養教諭 亀ヶ谷昭子先生資料より引用

まとめ

コロナ感染拡大の中、学校においてGIGAスクール構想の取組が進められており、栄養教諭・学校栄養職員たちも、ICTの活用などによって、正確なエビデンス(根拠・証拠)に基づいた食育を行うことが、これからの厳しい時代には必要かつ重要と考える。

では、エビデンスに基づいてどのように取り組んでいけば良いか、そのために何を学習すれば良いかなどについては、「公益社団法人全国学校栄養士協議会」や、「栄養教諭食育研究会」*5など様々な栄養教諭等のための研修会・講習会などの学ぶ機会を利用して、広く最新の情報や知識を身に付け、資質の向上を図って現場の取組に活かし、さらに活躍して頂きたいと思っている。

「第3回食育シンポジウム」から抜粋・編集

(3) コロナ禍以前から継続して取組まれているICT活用の先進的・高度な取組の事例

自治体が一体となって取り組む「子供の学びを止めない」ための充実したオンライン授業

熊本市：市長部局・教育委員会

- 2016年の熊本地震後、「長期復興の担い手は子供たち」との大西一史熊本市長の強い思いから、市長部局と教育委員会が連携し、NTTドコモの復興支援を受けて、段階的にどこでもつながる端末が配備され、学校教育へのICT活用が始まった。

休業中の4/15から、ICTを導入してオンライン授業開始

- 前もってオンライン授業の実証実験・教員の研修・家庭のネット環境調査などを実施して準備
- 休業中の4/15からオンライン授業開始、その背景には一貫して「どんな災害があっても、子供の学びを止

*5 栄養教諭食育研究会 HP



めない」、「この目的の手段として、ICTの活用を導入する」との強い志があった。

「環境が不平等だからやらないのではなく、できることからやる」という思いにある原動力

画10 「毎朝、楽しみ」「画面越しに顔が見れて安心」心の温度をあげることができた



Kumamoto Education Week 2020映像より



- 上記の導入を可能にしたのは、「不平等だからやらない」のではなく「できることからやる」ことで、全体のレベルアップにつなげたことが大きい。
- 「ゼロリスクを求めるあまり過剰なセキュリティ設定を避ける」、「制限は極力掛けない」、「きめ細かな教員研修」といった幅広く柔軟な考察と子供への熱い思いが常に取組のベースに在り、このようなことが、心ある高度なICT活用の取組の原動力となった。

その他の先進的・高度な取組事例一覧については、当協会HPの新型コロナウイルス関連情報の【ICTを活用した先進的・高度な事例】の箇所に、事例一覧を掲載しております。

今後も、随時更新いたします。



(4) オンラインによる全国研修会

全国都道府県代表者研修会を初めてオンラインにより開催(表紙と目次参照)

公益社団法人 全国学校栄養士協議会主催

全国47都道府県の代表が、初めてオンラインによる代表者研修会に参加して開催

2020年12月10日(木)、公益社団法人全国学校栄養士協議会の代表者研修会が初めてオンラインにより開催された。(表紙参照)各場所の異なった環境の下、事前確認や通信テストなどが入念に行われ、初めてのオンライン研修会開催に向けて、多くの困難を乗り越え、当日は全国から44名の参加を得て実施された。

(5) オンラインによるシンポジウム開催

シンポジスト 11 名、100 名以上の一般視聴者がオンラインによるウェビナー「第 3 回食育シンポジウム」に参加（12 ページ 画 9 参照）

認定 NPO 法人 21 世紀構想研究会・全国学校給食甲子園事務局主催

● 2020 年 11 月 14 日土曜日、オンラインによるウェビナー^{※6}「第 3 回食育シンポジウム」～コロナ禍の学校給食からみえた課題を考える～が開催され、事前準備として下記事項が行われた。

- ①シンポジスト（11 名）に、Zoom アカウント ID（事前登録したメールアドレス）を配布
- ②シンポジストと事前打ち合わせを実施
- ③一般視聴参加者を事前に募集し、当日一般視聴者（100 名まで）に対してウェビナーとして同時配信、それ以外の視聴参加者には YouTube にて同時配信

(6) 学校給食センター調理管理システムにおける ICT の活用事例

「食育」の観点と ICT を駆使した調理管理システム
学校給食衛生管理基準の徹底とおいしい給食へのこだわり

静岡県 袋井市立中部学校給食センター

施設概要

利用開始日：2013 年 9 月～

調理能力：6,000 食 / 日 ※ 3,000 食 × 2 献立調理
（内、アレルギー対応食 80 食 / 日）

配送先：小学校 6 校、中学校 2 校、幼稚園 6 園

画11 袋井市立中部学校給食センター外観



袋井市立中部学校給食センター紹介動画より引用



未来を担う子どもたちが心ゆたかに成長してくれることを願って誕生した「4つのコンセプト」

1. 安全・安心・おいしさへのこだわり

- 「学校給食衛生管理基準」に基づいた施設設備
- 調理場内を一定の温度・湿度に保つ空調換気設備
- 調理後の出来上がり量、残菜計量器にて計量した残菜量をデータ分析して献立内容に反映
- 調理場内の温度・湿度の管理や異物混入を防ぐため芯温の計測データをパソコンで管理

※6 オンライン上で動画・音声を配信するセミナーを指す。ウェブとセミナーの組み合わせ造語で、「Web セミナー」「オンラインセミナー」とも呼ばれる。

2. 地場産物の活用を促進

- 地元生産者との連携に加え、市内の農家と学校給食センターを結ぶ体制や流通システムを構築
- 根菜類や泥付きの地元野菜等を洗浄する野菜前処理室を設置

3. 積極的に食育を推進

- 五感を育む手作り給食（3,000 食 × 2 献立調理）
- 調理室の調理作業が見られる映像システムを導入
- 食育活動（研修・見学・展示）拠点の役割

4. 災害時に備えた炊出し対応

- 災害直後の停電時に炊出し用として、非常用発電機と専用釜を設置
- 電力復旧後は 10 台の回転釜を使用し、ご飯やみそ汁を調理・提供可能（避難所への供給も可能）

画12 非常用発電機



袋井市立中部学校給食センター紹介動画より引用



最先端電化厨房機器ーデジタル化による各種管理システム

1. 温度管理システム（HACCP マスター V3 を導入）

- 調理場内の温湿度表示及び自動記録（全 22 か所）
- 現在温湿度表示及び記録（グラフ表示可能）

画13 調理室の温度・湿度を時間ごとにパソコンに記録し事務所で管理



袋井市立中部学校給食センター紹介動画より引用



- 冷蔵庫等（冷蔵庫・冷凍庫・消毒保管庫）の温度記録（異常時警報あり、全 109 か所）
- ハンディーターミナルによる、中心温度等の測定及び記録（全 16 機）

画14 中心温度は筆記用具を使用せず記録が自動的に管理される



袋井市立中部学校給食センター紹介動画より引用

- バーコードによる読み取り（献立名・使用機器名担当者等）後、中心温度を測定・自動記録。作業終了後、メイン機器へ保存記録。

3. 提言 「コロナ禍を超える ICT を活用した『健康で健全な食生活の実践』に向けて」

「子供たちの健やかな成長」を支える ICT 活用の到達点をめざして

佐賀県基山町立基山小学校

校長 江口 陽子

前学校給食調査官・当協会理事



学校全体で取り組む食育

学校教育活動全般を通して学ぶ食育は、各校の食の課題解決に向けて、組織を整え、食育の目標を設定し、食に関する全体計画や学年ごとの年間指導計画に基づいて実施されている。日常的には、学校給食を中心に体験を通して学ぶとともに、各教科のねらいを踏まえ、発達段階に応じて意図的・計画的に進められているが、児童生徒の身体状況や家庭での食生活状況等、課題は山積しており、健全な食生活実現に向けて、児童生徒自らが食生活を管理したり判断したりできる知識や技能、実践力を身に付けることができるように、食育を推進していくことが求められている。

GIGA スクール端末導入に伴う 1人1台端末を活用した「食の履歴」作り

GIGA スクール構想では、児童生徒 1人1人がクラウド活用を前提とした学習環境を持続的に実現できること、端末を活用して一斉学習だけでなく、学習状況に応じて個別に学習できることで、教科等において、学びを深める、学びの本質に迫る等、活用の効果が期待されている。また、児童生徒には個々にアカウントが付与されるため、学校が貸与する端末だけでなく、家庭においてもスマートフォンやパソコンを使って学習できる。食育においても、家庭状況や個人情報等への十分な配慮をし

2. 調理機器の温度測定（中心温度計による調理が可能）
 - 機器付属の中心温度計を用いて、達温による自動調理
 - スチームコンベクションオープン（5台）
現在温度（中心温度計）、設定温度、調理メニュー、扉の状態、風量等を記録
 - 真空冷却機（2台）
現在温度（中心温度計）、設定温度・時間、状態等を記録
3. 場内カメラ
 - 調理場内 14か所のリアルタイム表示及び自動録画（2週間程度の自動保存、2倍・4倍ズーム）

て端末を活用し、食や身体状況等に関する「食の履歴」のデータによる集積や解析・検討・改善・実践など、個に対応できる環境を整えることで、生涯を健康で過ごすことができる健全な食習慣の定着や正しい食の選択ができる児童生徒の育成を目指し、サポートできる可能性が高まると考える。

食を中心として児童生徒の健康をサポートする栄養教諭等に期待される役割

食の自立に向けて学校給食を活用した指導の充実

学校給食は、日本人の食事摂取基準 2015年版を参考として、食事状況調査や昼食必要摂取量等を勘案し、児童生徒の健康増進および食育の推進を図るために望ましい栄養量が算出されている。

各調理場においては学校給食摂取基準を踏まえ、児童生徒の実態から食事摂取基準を策定し、栄養バランスのとれた望ましい食事を提供しているが、望ましい食習慣の定着、食の自立に向けた児童生徒へのアプローチは、栄養教諭等の配置等の課題もあり十分とはいえない状況となっている。

今後は、望ましい食事の提供とともに、児童生徒の食の自立に向けて、食生活の状況や知識・技能等を、管理栄養士（栄養士）としてアセスメント（評価）し、課題や改善点を明確にした上で個別指導の充実を図ることも栄養教諭の重要な役割として期待するところである。

学級担任及び養護教諭、体育主任との連携

毎年度、学校においては身体測定や検診等により児童生徒の発育状態や健康状態を把握し、データによる記録を残しており、また、体力面においては、新体力テスト等を実施し、体力・運動能力等が把握されている。さらにこれらのデータは、文科省において抽出により、調査

結果が分析、公表されている。

学校においては、学級担任及び栄養教諭、養護教諭、体育主任等が連携し、児童生徒の健康状態を健康診断や新体力テストの調査結果、学校給食の摂取状況等の結果をもとに、食生活、検診結果、体位、体力面からリサーチし、学校保健委員会等で協議し、心身ともに健康で過ごすことができる児童生徒の育成を図っている。また、健全な食生活を実践する手立てとして、今後は1人1台端末を活用して、学校給食の個々の摂取量等を画像で食の履歴として記録に残し、身体測定の結果とともに学校給食摂取量の年次推移と成長曲線を照らし合わせ、健康状態や身体状況とともに児童生徒自らが成長の様子を把握する等、健康に関する情報の集積と改善に向けたプログラムや支援計画の作成や実践等、学校では組織として機能できる態勢を整えることも求められている。

食の自立に向けて、生活習慣病予防を意識した家庭での実践、定着

コロナ禍の中、対面での指導が困難な場合も想定されるが、栄養教諭1名で多くの児童生徒、保護者を対象として指導や支援を行うツールとして、1人1台端末の活用は、実際に見たり聞いたり自分で調べたり、他の児童生徒と情報を共有できるため、とても有意義で効果的であると考えられる。

また、食の自立に向けて、食生活での課題や改善点を家庭と共有した上で、これまで作成した教材等を活用したり、有効なプログラムの紹介や実際に試してみたりす

る等、家庭においても親子で楽しく、わかりやすく学べる教材等（プログラミング）の開発や具体的な食事や運動プログラム等の提案も望まれる。

画15 「進んでからボールをつかむまで」を言葉で順序立てて考えた後、パソコンを使ってプログラミングにチャレンジ（4年生の取組）



熊本県八代市立郡築小学校HP
令和2年7月3日ブログより



まとめ

近い将来、児童生徒自身が自分の健康を管理するために、個別に集積された情報と改善に必要なプログラムやアドバイスがいつでも、どこでも取り出し可能となれば、食生活が起因する生活習慣病予防対策として大いに役立つと考え、その基本的なスキルが、学校給食および学校における食育を通して、予測不能の災禍を乗り越えるためにもICTを活用することにより、子供たちが体得できることを願っている。

2020年12月15日寄稿

4. 編集を終えて

1月26日の中央教育審議会答申の中で、ICT活用は学校教育に「必要不可欠」、「ICT活用指導力の一層の向上は急務」と強調されていますが、コロナ下で端末配備が進みながら教員の技術的問題などで次年度の円滑な切り替えが難しいという現状があります。しかし一方で再度、本号の「初めてICTを活用した身近な事例」などの内容をみていると、共通ポイントとして、休業中に、①子供たちの生活リズム・心身の健康が心配 ②校長・教職員から子供への発信を提案 ③栄養教諭等と学校全体で取り組む ④紙面よりICTを活用した動画の効果を実感、といったことが報告されており、学校教育現場における教職員の方々の「子供たちへの深い想い」をしっかりと確認することができます。

当編集局はこれらのことを基に、「まず、できることから始めてみるICTの活用」への手応えを得て、改めて本号が「子供の学びを止めないため」の一助となることを心から願っています。

本号ご希望の方は、送付先住所・氏名・電話・FAX番号・メールアドレス・希望冊数をご記入の上、当協会事務局までFAX又はメールにてお申込みください。



「新型コロナウイルス感染症への対応
～休校中における栄養教諭・学校栄養
職員の取組～」
公益社団法人全国学校栄養士協議会より発行



公益財団法人 学校給食研究改善協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷3-12
TEL. 03-3357-6755
FAX. 03-3357-6756
E-mail : kaizen@gakkyu.or.jp



本紙記事・写真・図表等の無断複写・複製・転載を禁じます。学校教育現場等で指導等に活用される際には、必ず、「転載・引用等許可申請書」（当協会ホームページ掲載）にて、お申し込みくださいますようお願いいたします。指導資料としてご利用の場合は追加発送させていただきますので、お知らせください。